

平成18年（2006年）1月6日

横 須 賀 市 議 会 議 員 様

企 画 調 整 部 長

米兵による日本人女性殺人事件について

1月3日に発生した標記の事件について、本日、在日米海軍司令部は米兵を拘束したことを発表し、米海軍第7艦隊司令官のジョナサン・グリナート中将及び在日米海軍司令官のジェームス・ケリー少将が、蒲谷横須賀市長と内藤横須賀市議会議長に対する謝罪のため本市を訪問しました。

その際の市長・議長連名の抗議・要請書と会見概要、及び米軍の発表内容（和訳文を含む）について報告いたします。

事務担当は、基地対策課

内 線 1 3 7 6

米兵による日本人女性殺人事件にかかる市長と市議会議員
に対する米海軍の謝罪内容等について

日 時 平成18年1月6日(金) 15:30 ~ 16:27

抗議・要請者 横須賀市 蒲谷 亮一 市長
内藤 治明 市議会議員

対応者 米海軍 ジョナサン・グリナート中将
(第7艦隊司令官)
ジェームス・ケリー少将
(在日米海軍司令官)

同席者 横須賀市 杉本 俊一 副市長
上田 順子 副市長
杉山 雄二 市議会副議長
米海軍 ジョーン・ウォラック中佐
(在日米海軍司令部報道部長)
ジョーン・ニーマイヤ政務補佐官
(在日米海軍司令部政務補佐官)

市長からケリー少将に抗議・要請書を手渡す。

米軍から謝罪があった。

ケリー少将

(冒頭謝罪)

「今回の事件は大変ひどい事件であると認識しており、横須賀市民としても大変悲しみ、遺憾に思っている。在日米軍が取りうるあらゆる手段をとり、二度と起こらないよう適切な措置を行う。(日本語で) ごめんなさい」

ゲーリー・ラフェッド大将・太平洋軍司令官からの手紙を持参し、その場で読み上げた。

グリナート第7艦隊司令官

「皆さんと同じように同じ地域に住む者として大変遺憾に

思っている。横須賀市民との良好な関係が悪化しないように、このようなことが二度と起こらないように全力を尽くしたい」

(記 者 退 席)

抗議・要請内容 別紙 抗議・要請書のとおり
市長から別紙の要請書を読み上げた。

その上で、「具体的な対策を早急に執り、このような事件が二度と起こらないよう抗議・要請する」

内藤議長

「今回は大変凶悪な事件であり、報道が先行する中で、米軍が持っている情報をもっと早く開示してほしかった」

「日本のメディアの情報は大方正しかったと思うが、何故米側から正式な情報が出されなかったのか」

「このままでは、報道内容を市民が信じてしまい、これは憂慮すべきことである。」

市長

「容疑者の詳細な情報を開示してもらいたい」

回答内容

ケリー少将

「容疑者の詳細情報は、米国法で保護されている。氏名は出せないが、キティ・ホークの乗組員で、海軍経験1年半の21歳の三等水兵である。今日、神奈川県警が基地内へ立ち入り、取り調べを開始している。軍隊入隊前の逮捕歴はなく、研修中も普通の勤務態度である」

グリナート中將から

若い兵隊の研修制度について説明があった

「研修を行っているものの、今回の事件の被疑者の行動等が把握できず発生してしまい、再度お詫びしたい」

「昨日から来週の月曜日まで反省期間、熟考期間を取り対応を執り行う」

「幹部職員と下士官の会議を開催し、具体的な対応策を検討する」

「反省の時期には、イルミネーションを消灯し、若い水兵だけでなく全員に夜 12 時までの門限を設ける、どのような対応ができるか、各部隊に命令を出した」

ケリー少将

「身柄の引渡しは、国同士の合意手続きに従って日本政府の起訴前の要求に対し、すぐに手続きが進むようラムズフェルド国防長官にも報告している」

「被疑者の拘束を優先させたので、情報公開に遅れが生じた、日本警察が事件発生後 3 日目に基地内に立ち入り事件の捜査を行うことは、他地域では出来ないことである。米軍の代理人が取調べに立ち会うことができるのは、初めてのことであり、画期的なことである」

平成18年（2006年）1月6日

在日米海軍司令部司令官
ジェームス・D・ケリー少将様

横須賀市長 蒲谷亮一

横須賀市議会議長 内藤治明

米兵による日本人女性殺人事件について

本日、米兵に殺人の容疑がかかっている旨の発表を受けました。

連日、公式な発表がないまま報道が先行する形で情報が流れていることについて、何故速やかな情報の提供がなされないのか残念でなりません。

また、報道によれば極めて残忍な殺人事件として扱われており、少なくとも本市にとっては過去例を見ない米軍関係者による凶悪事件ではないかと思っています。

あってはならない凶悪事件であり、誠に遺憾というほかはなく、罪のない市民の尊い命を奪ったことに憤りを禁じえません。一部の不心得者の所業ということで到底済まされる問題ではなく、永々として築いてきた日米の友好関係にも悪影響が出かねない事態であることを認識され、米側には猛省してもらいたいと思います。そして、いかなる手段を用いても、このような事件が再び起こることがないように善処方求めると同時に、強く抗議いたします。

今後については、事件が容疑者の身柄問題を含め厳正に処置されること、遺族に対し適正な補償がなされることを強く要請いたします。

海軍ニューズリリース
在日米海軍司令部
広報部

報道番号 06-02
2006年1月6日

速報

米海軍は日本人女性の死に関する容疑がかかっている米兵を拘束

日本、横須賀 - 日本当局との合同捜査で、米海軍は米兵の身柄を、横須賀基地内に拘束している。理由は1月3日横須賀で起きた日本人女性の死への容疑の件。

すばやく効率的に捜査の開始やこの事件の参考人として米兵を拘束したことは、米海軍と日本当局間の密接な協力関係が功を奏している。米海軍はこの件に関し、引き続き全面的に日本の法執行機関と協力する。

日本にいるすべての海軍関係者はこの事件に深く悲しんでいる。直ちに人命が失われた悲劇に合同で哀悼の意を示すため、熟考期間を設ける予定。熟考期間は日米同盟と地域の関係について、じっくり考える期間である。またその効力を引き続き保つための期間である。指導者が米兵に、関係の重要性を話し、同盟下の、また地域における彼らの役割を充分理解するために必要な時間である。

在日米海軍司令官 ジェイムズ・ケリー少将は次のように述べている。「心より佐藤さんの家族と友人にお詫びを申し上げたい。この大変な時期に、心からお悔やみ申し上げたい。また、日本国民の皆さん、特に横須賀市民の皆さんにも深くお詫びを申し上げたい。繰り返し、この悲惨な事件に心より哀悼の意を表す。引き続き日本当局への全面的な協力と支援をお約束する。」

NAVY NEWS RELEASE

Commander, U.S. Naval Forces Japan
Public Affairs Office
PSC 473 Box 12
FPO AP 96349-0051
(046) 822-7579
011-81-46-816-7615

For Immediate Release

Release # R-06-02
6 January 2006

Navy holding Sailor in confinement for alleged involvement in death of Japanese woman

YOKOSUKA, Japan – In a joint investigation with Japanese authorities, the U.S. Navy is holding a Sailor in confinement on the U.S. Navy base in Yokosuka for his alleged involvement in the death of a Japanese woman in Yokosuka City Jan. 3.

The close working relationship that exists between the U.S. Navy and Japanese authorities contributed directly to the speed and efficiency of both the commencement of the investigation and the confinement of the Sailor as a potential suspect in the case. The U.S. Navy continues to cooperate fully with and support Japanese law enforcement officials in this case.

The entire Navy community in Japan is deeply saddened by this incident and will immediately implement a period of reflection to collectively demonstrate sympathy for the tragic loss of life. The period of reflection is a time to think about our community relationships and the Japanese-American alliance, and ensure their continued strength. It is a time for leaders to talk to Sailors about the importance of the relationship, and to ensure they understand their role in their communities and in the alliance.

“I offer my most sincere apology to the family and friends of Ms. Sato, and I wish them strength and comfort during this very difficult time,” said Rear Adm. James Kelly, Commander U.S. Naval Forces Japan. “I also offer my deepest apology to the citizens of Japan, especially those in our Yokosuka community. I reiterate my deep regret and sadness over this tragic incident, and my promise of complete support and cooperation with all Japanese authorities remains firmly in place.”

~USN~

PRESS RELEASE



米国大使館 報道室 PRESS OFFICE, AMERICAN EMBASSY, TOKYO TEL. 3224-5264 / 5265 / 5266 FAX. 3586-3282

06-01R

January 6, 2006

Statement Regarding the Murder of Ms. Yoshie Sato in Yokosuka City

January 6, 2006

The American Embassy in Tokyo deeply regrets the senseless murder of Ms. Yoshie Sato. The embassy continues to work closely with U.S. military and Japanese authorities to bring the investigation of Ms. Sato's murder to a swift and successful conclusion. U.S. Navy investigators have been cooperating closely with Japanese counterparts from the beginning and will continue to do so.

U.S. Ambassador J. Thomas Schieffer made the following statement in the United States:

I wish to express in the most sincere terms my personal sorrow and outrage about the uncivilized behavior that resulted in the death of Ms. Yoshie Sato in Yokosuka City on January 3, 2006. My most heartfelt condolences go out to the family of Ms. Sato, to her friends, the citizens of Yokosuka City, and the people of Japan. I also wish to convey to all the people of Japan that the U.S. military and the American people are deeply shocked and saddened by this event. The Embassy of the United States of America is closely following this case and working with CNFJ and Japanese authorities to ensure that justice is done.

(下記の日本語文書は参考のための仮翻訳で、正文は英文です)

横須賀市の女性殺害事件に関する声明

2006年1月6日

在日米国大使館は、佐藤好重さんが理由もなく殺害された事件に関し痛恨の念を禁じ得ません。米国大使館は、この事件の捜査が迅速かつ適切に終結するよう、在日米軍および日本の関係当局と引き続き緊密に協力いたします。在日米国海軍の捜査官は、事件の当初から日本側担当者と緊密に協力しており、今後も引き続き協力いたします。

トーマス・シーファー駐日米国大使は、米国で次のような声明を発表しました。

「私は、2006年1月3日に横須賀市で佐藤好重さんが殺害されるという野蛮な行為に対し、個人的な悲しみと激しい怒りの気持ちを心の底から申し上げたいと思います。佐藤さんのご遺族、ご友人、そして横須賀市民と日本国民の皆様様に心からの哀悼の意を表します。私はまた、米軍と米国民がこの事件に大変な衝撃を受け、深く悲しんでいることを日本国民の皆様にお伝えしたいと思います。米国大使館は、正義が行われることを確保するために、今回の事件を真剣に見守り、在日米海軍および日本の関係当局と緊密に協力しています」